

# 学びと誇りが実感できるまち

～「非認知能力」が  
注目されています！～

令和5年2月号

庄原市教育委員会  
教育長 牧原 明人



ぱつぱつと紅梅老樹花咲けり (飯田蛇笏)

先月、鈴木三重吉賞（詩・作文）の優秀作品の発表がありました。ここ数年、庄原市の子供たちの表現力は大変評価されてきていますが、本年度も素晴らしい力を発揮しました。5727点の応募作品の中から、特選4点、優秀賞19点、佳作54点、合計77点の作品が入賞しました。おめでとうございます。

子供たちの磨かれた感性や身の回りを観察する力などによって、自分の気持ちや考えを素直に綴っている作品が多く心を打たれます。これからも自分の言葉で思いを豊かに表現する力を培ってほしいと思っています。

さて、今回は「非認知能力」についてです。改訂された学習指導要領には、子供たちに生きる力を育成するために、各教科等において、3つの資質・能力を育成することが示されています。①知識及び技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力、人間性等です。

「非認知能力」のことについて、ここ数年研究も盛んになり、その重要性もあちらこちらから耳にするようになってきています。研究者によってさまざまに定義づけられるものもありますが、知能指数（IQ）や学力テストのように数値では測定できない能力全般のことで、子供の将来や人生を豊かにする力、生涯にわたって役立つ力といわれており、前述の②の見えにくい学力と③の見えない能力がこれにあたりと考えられます。

この能力を高めていくと、激しく変動する社会への対応力、生き抜く力にもつながっていきます。この数値化されにくい能力は幅広く「非認知能力」と位置付けられるため、イメージしにくいかもしれません。教育機関等の研究や情報などを参考に、考えられる能力の例を挙げてみます。

【自制心、主体性、協調性、創造力、集中力、回復力、失敗から学ぶ力、精神力、やり抜く力、コミュニケーション能力、自己肯定感、問題解決能力、我慢する力、意欲、思いやり、工夫する力…など】

こうした能力は、友達や集団の中で、年齢にふさわしい遊びや活動を通して、また、困難と向き合うことや失敗をすることなど、多様な経験を通して培われるといわれています。子供たちが、多くの友達と幅広く触れ合う機会をたくさんもつほか、家族で過ごす時間や楽しい時間を共有する中で自然と非認知能力を鍛え、将来につながる豊かな力を育むことを願っています。